

物流拠点
Logistics base

全国、そして世界とつながる交通の「要」

アジアに近く、本州と九州の結節点、また九州東西の起点に位置する北九州市は、高速道路、鉄道、港湾、空港と、「陸」「海」「空」の物流インフラが充実した交通の要衝です。今後も物流インフラの機能強化や物流関連施設の集積を図り、さらなる物流拠点化を目指していきます。

物流拠点化への取り組み | 01

“ 世界をつなぐ「北九州空港」 ”

■ 九州・西中国の物流拠点空港

北九州空港は九州・中国・四国地域で唯一、国際航空貨物定期便が就航しています。令和3年度の国際貨物取扱量は1万9,605トン(前年度比約1.4倍)と過去最高を記録し、全国第6位と躍進しました。仁川国際空港(韓国)との間を運航する大韓航空の貨物定期便は、令和3年11月に週3便から週4便に増便されました。さらに同月には、超大型輸送機「アントノフAN-124-100」により、海上空港の特長を生かしたシーアンドエア(船と飛行機)輸送による人工衛星の輸入が実施されるなど、世界をつなぐ「北九州空港」として、九州・西中国の物流拠点化を進めています。



▲国際貨物定期便

■ 北九州空港の機能強化に向けて

「九州・西中国の物流拠点空港」の実現に向けて、大型貨物機の長距離運航が可能となる滑走路の延長(2,500m→3,000m)や、より多くの航空貨物を受け入れるための上屋整備など、空港機能強化の取り組みを進めています。



滑走路延長イメージ

▲北九州空港

©Kitakyushu City Government

▲人工衛星輸入

物流拠点化への取り組み | 02

“ 九州の物流陸路は北九州市へと必ずつながる ”

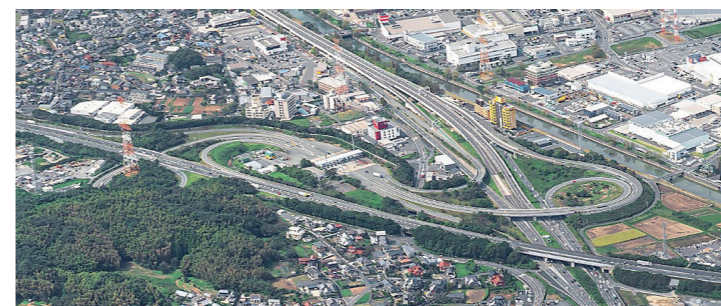
■ 九州における鉄道物流の要「北九州貨物ターミナル駅」

拠点貨物駅である「北九州貨物ターミナル駅」は、福岡・熊本・鹿児島方面、そして大分・宮崎方面の九州全域に加え、関西・関東・北海道に至る全国に向けて貨物を送り出しています。便数は九州最大で、九州・本州のすべての貨物列車が必ず止まる鉄道物流の拠点駅です。



■ 充実した高速道路網

九州自動車道、東九州自動車道、中国自動車道の結節点である北九州市は、九州各県はもとより、本州へのアクセスがひとときスムーズ。さらに、北九州都市高速道路が市内を縦横に走っており、これらと港湾、空港などの施設を幹線道路網が結び、効率的な物流を実現しています。



北九州市は、本州と九州の結節点に位置する交通の要衝です。九州から本州に陸路で行く際は必ず通過することから貨物を集めやすく、さらに、発展著しいアジアのマーケットに近いなど、「物流拠点」として地理的な優位性があります。

物流拠点化への取り組み | 03

“ 地域経済を支える「北九州港」 ”

■ 西日本最大級の内航フェリー基地



長距離フェリー発祥の地「北九州港」。特に「新門司」は、東京、横須賀、大阪、神戸、徳島などを結ぶ西日本最大級のフェリー基地で、トレーラーなどを運搬する貨物船であるRORO船による自動車輸送の拠点にもなっています。

■ 海上出入貨物取扱量全国第5位の「北九州港」



海外との豊富な航路を持つ「太刀浦(門司)と、大型船の入港が可能な「ひびき(若松)」。これら東西2つのコンテナターミナルでは、韓国、中国、台湾、東南アジアの国々へ向け、36航路、月間156便(令和4年10月現在)もの定期コンテナ船が行き交っています。